

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家平岸		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1-26 (電話) 011-841-7046		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年8月19日

【情報提供票より】 (20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 12月 7日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 20人 非常勤 0人 常勤換算	15.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	1～3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円		その他の経費(月額)	水光熱費24,000 円
				暖房費 7,000 円
敷金	有()円・(無) (暖房費11～4月)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円		有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	4 名	要介護2	11 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	69 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニックあい エスポワール北広島
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設後5年以上経過した当ホームは、当初から勤めているホーム長の家庭的で利用者本位のケアサービス精神が職員にも浸透し、理念に基づいた支援の徹底により、暖かみと親しみのある施設となっている。ホームは利用者の日常的活動を大切に、ホーム内の役割や楽しみごと以外に多数の年間行事計画によって外出の機会を多く持つなど、変化に満ちた生活を過ごせるよう努めている。ホームの夏祭りなど行事の積極的な開催によって周辺住民も参加するなど、地域との係わりも深まってきており、家族の方々からの信頼も厚いホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回指摘の番号入力式の施設は、防犯対策と交通量の多い道路の危険回避のため、家族の了解を得ている。利用者には施設による閉塞感を与えないため、何時でも自由に外出できるよう職員は常に配慮している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は内部研修で評価項目を職員全員で検討し、職員の意見を集約しながら管理者やユニットリーダーが取りまとめて作成している。自己評価の改善必要事項については、全員で話し合いながらさらなる向上に向けて努力を行なっている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、民生委員や町内会の代表の方も含め隔月開催されており、ホーム概要や近況のほか、町内会とホームの係わり、ホーム行事の案内、介護保険の問題など、多様な議題について議論されている。会議で検討された事項は職員にも伝えられ、意見や要望などを全員で検討しながら、ホーム運営に反映させるよう努めている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の方々からの要望や意見は、ホーム来訪時に職員が積極的に聞くように努めており、家族対応記録簿に記載している。記載事項は運営法人およびホームのミーティングで検討しながら、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内の大掃除や花一杯運動など、地域の行事に職員と利用者が出来るだけ参加するよう努め、地域のホームに対する理解も深まっている。また、夏祭り花火大会などホーム独自の行事を開催し、周辺住民が訪れてくれたり、各種遊びや音楽演奏などにボランティアの方々協力していただくなど、地域との交流が進んでいる。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の運営理念に、地域との係わりを示した理念を追加している。この理念に基づいて、地域住民とともに支え合う関係を深めながらケアサービスに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時にホームの運営理念を唱和して確認し、職員全員で共有しながら利用者のケアサービスに活かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内の掃除、緑化運動など各種行事に職員や利用者がともに参加している。また、夏祭りの花火大会など、ホーム独自の行事に周辺住民の方々が来訪され、一緒に楽しむなど地域との交流が行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の内容を、内部研修の一環として職員全員が検討している。その結果を集約して自己評価を作成するなど、評価の意義と必要性を理解しており、評価結果の内容に応じて、ホーム運営の改善に活かすよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員や包括支援センター職員などをメンバーとして、2ヵ月毎の開催を原則として実施している。会議ではホーム運営報告以外に積極的な意見交換がなされ、その結果を利用者のサービス向上などに反映させるようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営法人の担当者やホーム管理者が行政の担当部署を頻繁に訪れ、ホームの報告や情報交換を行なっている。さらに、市の管理者会議や連絡会にも積極的に参加するなど行政との連携を重視している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方々への報告は、ホーム来訪時に職員が利用者の生活ぶりや健康状態を詳細に説明している。また、毎月発行のホーム便りを郵送しているが、利用者一人ひとりの近況写真を付けた葉書も送り、家族に喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方々からの意見や要望は、来訪時に職員が把握するよう努めており、要望などがある際には家族対応記録簿に記載して、運営法人及びホームのミーティングで検討しながら対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動などは、運営法人内のほかのホームへの異動や離職などが少し有る。このため、利用者へ事前に当該職員が話をしたり、ほかの職員が不安を与えないよう工夫しながら説明するなど、できるだけ影響を与えないよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる体制は、ホーム内や運営法人での内部研修が毎月実施されている。外部研修も各種研修情報が職員に伝えられ、グループホーム協議会などの研修に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、区や市内の管理者会議に出席し、ほかのグループホームとの情報交換などの交流がある。また、運営法人内の月例会合同会議で、ほかのホームの状況把握を行ない、運営の参考にしてている。	○	法人内のグループホームとの交流は十分に有るが、今後は、ほかのグループホームとの連携強化を図り、相互訪問などによって、サービスの質の向上を図るなどの取り組みを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望がある場合は、家族との面談以外に利用予定者とともにもホームにも見学に来ていただくようにしている。来訪時にはお茶や食事をともにし、できるだけホームに馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護する立場としてではなく、家族の一員としての思いを持ちながら、利用者一人ひとりの考え方や行動を尊重している。ホーム内の役割や分担なども職員と利用者が一緒になって行ない、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に家族からの情報収集を行ない、これを参考にしている。日常的にはホーム内の行動や表情、職員が利用者の話を十分に聞きながら、思いや意向を把握するように務めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成は、家族の要望や意見も参考にしながら、ユニット会議で職員全員で検討している。さらに、医療機関とも相談しながら計画を作成し、職員全員の共有となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない状態変化が生じた際には、その都度、医療機関とも相談しながら介護計画を変更し、家族に説明するなど随時見直しを行なっている	介護計画は、3ヵ月毎に職員全員で検討しながら定期見直しを実施している。利用者に状態変化が生じた際には、その都度、医療機関とも相談しながら介護計画を変更し、家族に説明するなど随時見直しを行なっている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院付き添い、花見会、食事会など、ホームの各種行事に車を利用して外出している。さらに、夏冬を通じて、毎日のように協力医療機関の整骨院への送迎など、多様な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関による隔週毎の定期往診があるが、利用者の希望でかかりつけ医の受診も自由で、職員が付き添い支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして独自の重度化や終末期の指針を作成しており、その内容は職員が共有している。利用者のホーム入居時には家族に重度化や終末期の対応について説明しており、現実となった際には、医療機関と緊密な連携を取りながら対応するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけやケアサービスを行なう際には、誇りやプライバシーを損ねないように十分に注意している。各種記録など、個人情報の資料も慎重に取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームは利用者中心に家庭的雰囲気的生活を重視している。職員はホームの都合に合わせるのではなく、利用者の思いや意向を大事にしながらゆったりとしたペースで支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は毎食をデジカメで写し、運営法人内のグループホーム間のコンテストもあり、彩りや献立の工夫がなされている。食事準備や後片付けは職員と利用者がとに行ない、食事も職員が同じテーブルで楽しく食事を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週2～3回、11:00～16:00の間に実施している。夜間の入浴は行っていないが、家族が付き添って入浴する場合は可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食事手伝い、掃除、畑や花壇の手入れなどの役割や手芸などの趣味を持っている。また、百人一首などの各種ゲーム、ボランティアの方々の参加による麻雀、大正琴演奏、マジックショーなど、パライティに富んだ楽しみごとが、数多く実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは利用者の外出支援を積極的に実施しており、日常の散歩以外に利用者の希望も取り入れて年間計画を作成し、外食、ドライブ、買物ツアーなどを行なっている。また、年間を通して日祭日以外は毎日協力整骨院へ車で通院し、気晴らしに役立っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営法人の方針として、防犯および交通量の多い道路への対策のため、玄関に日中もナンバーロック式の施錠しているが、家族の了解を得ている。職員は利用者に閉塞感を与えないよう外出の希望の際は即座に対応している。	○	運営法人の方針やホームの立地環境などから、玄関の施錠はやむを得ない状況にある。しかし、ユニット入口もナンバーロック式の施錠をしているので、この部分だけでも、日中は鍵をかけない工夫の取り組みを期待したい。

札幌市豊平区 グループホーム 里の家平岸

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、ホームは年2回の避難訓練を実施し、利用者の身体能力に合わせた避難方法も研究している。	○	実際の災害発生時には、ホームだけの対応は困難であることから、今後の避難訓練には、地域住民の方々の協力を得ながら、実施する取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録している。食事もカロリー計算が実施され、利用者の摂取量が少ない場合は、エンシュアなどの捕食による対応も行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの共用空間は、ゆったりと過ごしやすい構造で不快な音や臭気も無く、利用者は快適な暮らしを楽しんでいる。また、ホーム内の随所に植物や季節の飾り、利用者の写真が有り、親しみのある雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は十分な広さを有し、明るく清潔な雰囲気がある。利用者の好みで馴染みの調度品や飾りを持ち込み、居心地よく過ごしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。